

# 全国商工新聞

## 長岡版

—発行編集—  
長岡民主商工会  
長岡市中沢167-1  
☎ 33-5948

2016年  
9月12日

第1827号

婦人部は7、8月、原水禁  
世界大会参加、県・日本母親  
大会参加、TPPフェスタ出  
店と多くの活動を行いました  
た。女性のみなさん、あなた  
も一緒に活動しませんか？

# 第62回日本母親大会(石川・福井で開催)に 長岡民商婦人部から6人が参加

8月20日(土)～21日(日)、第62回日本母親大会が石川・福井両県で開催され、のべ9300人(新潟県代表338人、県婦協から66人)が参加しました。長岡民商からは、婦人部代表として小国支部・Kさん、Hさん、西長岡支部・Mさん、東支部・Iさん、Hさんが参加。さらに新日本婦人の会長岡支部の代表として宮内支部・Oさんが参加、目標の4人を上回る合計6人の参加となりました。

初日は金沢到着早々に問題別集会在開催され、長岡民商代表5人は「平和と民主主義」に参加。渡辺治・一橋大学教授による「日本の平和と民主主義―私たちは今何ををしていくのか」と題した講演が行われました。渡辺教授は沖縄の現状、安倍政治の危険性、野党共闘の展望などについて熱く解説、参加者は「とてもわかりやすかった」と話していました。また、「新基地はつくらせない」と熱く語った被爆者の発言は、会場を感動で包みました。

宮内・Oさんは「くらし・社会保障」に参加しました。パネルディスカッションが行われ、制度的・財源的に限界を迎えた介護保険、年金の減額、貧困の増加、格差の拡大について討論されました。もはや憲法25条(生存権)は空洞化しています。2日目も朝から全体会が開催され、島洋子さん(琉球新報社編集局政治部長)による「憲法公布・女性参政権行使70年―いのち輝く平和な沖縄・日本を」と題した講演などが行われました。島さんは「今、平和が脅かされている。日本を沖縄化させてはいけません。沖縄のたたかいは9条を守る運動と結びついている」と力説し、参加者の共感を呼びました。



—日本母親大会に参加して—  
小国・Kさん「問題別集会の講演はとてもわかりやすく、勉強になりました。現状を変えなければ、と強く思います。全体会の講演は、大会初日の夜に見たNHKの番組とつながり、沖縄の困難を打破しなければならぬと思いました」  
小国・Hさん「これからの野党共闘のあり方を説いた問題別集会の講演は、大変参考になりました。大会は参加者の高齢化が進んでいます。民商運動も同じですが、若い世代を増やさなければ、と思います」  
西長岡・Mさん「被爆の体験を語った広島出身の方の発言に心を揺り動かされました。原水禁世界大会で広島に行き愛着が生まれたこともあり、とても感動しました。核兵器は絶対反対です」  
東・Hさん「沖縄の問題は日本全体で考えなければならぬと思います。全体会で若い世代の発言がありました。今後、母親運動をもっと多くの若い人たちに引き継がなければならぬと思います」  
宮内・Oさん「問題別集会では現実を突きつけられましたが、今後も活動を続け、良い社会が実現するようがんばりたいと思います。『一人ひとりには無力だが、無力ではない』という言葉に、非常に感銘を受けました」  
(紙面の都合で全員の感想を掲載する事ができませんでした。ご了承下さい)



**母親運動のはじまり** 1954年、米國がヒキ一環礁で行った水爆実験に、平塚らいてうらが全世界に向けて「原水爆禁止の訴え」を送りました。これがきっかけとなり、日本母親大会、世界母親大会が開催され、現在も運動を継続しています。